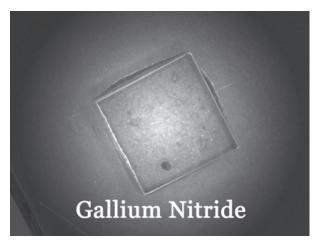
研磨屋稼業はつらいよ♪

精密研磨稼業を展開中♪材料との「格闘」や日々、感じたことを紹介します。 研磨屋店主:カノン (canon)

第11回 「作業者の資質を問われる時代」の巻

ものづくりに携わる作業者は自分が機械要員なのか、技術・技能を育む「匠」なのか、自らの在り方を示さなければなりません。それは自分の意志を示すことであり、選択することを求められます。選択とはそれに伴うであろう予測される将来と、予測できないチャレンジを受け入れることを示しているのです。加工に携わることで多くの関係者と出会い、考え方に触れることで感じた、作業者に必要な資質を今回は述べてみようと思います。来月はいよいよ、最終回ですからね、言いたい放題です。(テンションは低めで行きますよ)

まずは「材料に関する、加工に必要な知識に富むこと」。 材料によっては潮解性があるもの、熱衝撃に弱いもの、膨 張率の高いもの、非常に硬いものなど様々です。ガラスと名 のつく材料も驚くほどの種類があって同じ物性のものはひと つとしてありません。金属やセラミック、結晶材も同様です。 材料の知識や研削・研磨に必要な資材、加工メカニズム、 注意点に通じていなければ、貴重な材料をオシャカにして しまう危険がありますし、シャレにならない費用を請求される 可能性も否定できません。 そして次に「ワーク、仕様に合っ た治具を考案できること」。実際の製造現場ではこの治具に どのような細工をするかで仕上がる製品に価格差が出るの を何度も目にしてきました。結果的に顧客が幾らの加工費 を払ってくれるかで、その技術力の差を認めることになりま す。どんな固定方法を使うのか、どのような運動を与えるの かを加工機の構造と併せてチョイスしていきます。これで仕 上がりに大きく差が付くことが多いので、是非身に付けてお きたい資質ですよね。 三つ目は「加工面の品質を監視しな がら条件を微調整できること」でしょうか。マシンにワークを 投入してスタートボタンを押せばハイ終わり・・・なんて、誰に でも簡単にできちゃえば私たち、リストラの対象ですな。車 の運転で長い直線道路を走るのでさえ、僅かにハンドルで 進行方向を修正しながら走るのと同様に加工中のワークを 常に監視しながら、回転状態はスムーズか、ポリッシャは乾 いていないか、加圧状態、異常な音、振動の有無に注意を 払います。これは経験的なセンスを要する資質ですから先 輩が後輩に口頭で教えても身に付かないモノ。日頃の観察 眼の見せ所とも言えます。黙って見てるだけではなく五感を 研ぎ澄ませた集中力を要する部分。色、音、匂いによって レートが出ているかどうかが判断できるはずです。色や音は 四つ目は「仕様に適した評価方法を熟知していること」であります。学会誌5月号に掲載した通り、良いものを作るには測定が不可欠です。測定マニアである必要はないのですが、仕様に合わせてどのような測定機を使うことが望ましいのかを考えて測定結果を加工に反映させなければなりません。逆に言えば測定できない仕事は例外を除いて、請けてはいけません。最近は品質ISOとか認定されている工場も多くなってきましたからここに書くまでもないんでしょうけど・・・。



そして、最後に最も重要な資質として「常識に囚われない 飽くなき探究心と他人の成果を積極的に学ぶ姿勢」を挙げ ることができます。先に述べた四つは現場で働いて年数が 経てば遅かれ早かれ、それなりに身に付きますがコレは本 人の選択と義務に深く関わることなので強要することができ ません。あらゆる機会を捉えて学ぶこと、他人の成果を否定 するのではなく関心を持つこと、社外に出て周辺技術につ いて予備知識を広げること、研究熱心であること、使えそうだ と感じた技術は積極的に応用すること、自分たちの技術の 限界に挑むこと、そして、弱点と障害を理解すること。技術は 万能ではありません。「ウチには加工機があるから簡単にで きる!」という思慮の浅い自慢をする人間になって欲しくあり ません。「人の技術」と「人の技能」が成し遂げる成果に敬意 を払う意味で会社の財産は"固定資産"にあらず、資質に満 ちた作業者自身であると明言します。自分の選択に伴う結 果を受け入れる覚悟のある貴方が主役ですぞ!(つづく)

